

令和5年度 東北歴史博物館協議会議事録

日時 令和6年2月21日(水)
10:00~11:50

場所 東北歴史博物館 大会議室

出席者・委員 (50音順)

	東北大学大学院文学研究科准教授	籠橋 俊光
	多賀城市芸術文化協会会長	菊池 すみ子
	株式会社河北新報社常務取締役事業担当	今野 俊宏
	七ヶ浜町立松ヶ浜小学校校長	佐々木 淳子
	多賀城市立城南小学校PTA会長	根來 興宣
(副会長)	亘理町立荒浜中学校校長	堀内 恵理子
(会長)	東北大学大学院文学研究科教授	柳原 敏昭

次 第

1 開会

2 挨拶

東北歴史博物館館長

阿子島 香

3 委員及び事務局職員紹介

4 議事

(1) 令和5年度事業報告について

(2) 令和6年度事業計画について

(3) 東北歴史博物館中長期目標に係る令和5年度自己評価(12月末現在)について

5 閉会

(配付資料)

1 会議次第

2 東北歴史博物館協議会委員名簿

3 席次表

4 歴史博物館協議会条例

5 資料1 「令和5年度事業報告」

6 資料2 「令和6年度事業計画」

7 資料3 「第2期東北歴史博物館中長期目標前期(令和5年度~令和9年度)令和5年度自己評価
令和6年度個別取組」

次第1~3まで記載省略

議事概要

議 長	この協議会は公開でございますが、傍聴人はおりますか。
総括次長	おりません。
議 長	では、早速議事に入りたいと思います。 まずは、議事(1)の「令和5年度事業報告」について、事務局からお願いします。

副館長	<p>(説明の概要)</p> <p>【令和5年度事業報告】</p> <p>1 企画展示事業</p> <p>(1) 常設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合展示は、総合展示室で旧石器時代から近現代までの東北地方の歴史を展示。 ・テーマ展示は、3つの展示室で合計6テーマの通年展示を実施。 <p>(2) 特別展示</p> <p>【「悠久の絆 奈良・東北のみほとけ展」</p> <p>令和5年4月15日から6月11日までの50日間開催。東日本大震災復興プロジェクト「絆とうほく～復興への祈り」の一環として、日本の仏教はじまりの地である奈良と、被災地である東北各地の仏教美術や資料を展示し、仏教の祈りと復興の歴史を振り返ることを通して、被災した方々の復興へのよすがとなることを願い実施した。</p> <p>講演会5回、ワークショップ1日(2回)を行った。観覧者数は54,663人。</p> <p>【古墳をつくる人々 ―はにわ工人ハジベ君―】展</p> <p>令和5年7月15日から9月24日までの62日間開催。古墳や埴輪をつくる工人集団に焦点をあて、東日本各地の埴輪や古墳に副葬された資料を中心とした古墳時代を取り扱った展示をした。一日体験イベント、体験ワークショップ、体験企画、展示解説を実施、観覧者数は5,969人。</p> <p>【パネル展】</p> <p>「令和4年度宮城の発掘調査」、「海図で見る ～東北の港の昔と今～」の2回のパネル展をエントランスホールで開催。</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 施設運営(令和5年12月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども歴史館 利用児童数は13,715人。 ・図書情報室 利用者数は1,675人。 ・今野家住宅 利用者数は18,283人。 <p>(2) 催事事業(令和6年1月末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長講座(7/8回)、博物館講座(20回)、体験教室(春3回、冬4回)、多賀城跡巡り(6回)※雨天により3回中止、体験イベント(秋冬計2回)を実施。 <p>(3) その他の教育普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は、今野家住宅の維持管理・展示解説・展示制作・体験イベントの運営補助、新たに情報交換会2回を行った。ボランティア研修は今野家住宅現地解説会を実施。 ・学校教育との連携では、総合的な学習の時間における学びの場として児童生徒を受け入れ、中学生の職場体験受け入れ3校実施。校外学習で来館した生徒に「多賀城の歴史について」講義を実施、小学校1校は「工芸指導所について」講義した。博物館実習を12の大学から18人を受け入れ。博学連携大学院について平成8年から東北大学と締結した連携協定に基づき、連携大学院方式で学生の教育及び研究の指導に当たっており、今年度は学生1名について大学院教育の指導実施。 ・地域連携としては、市町村の社会教育の一環として、講座や講演の講師派遣依頼、地域に伝わる民話を語る団体を受け入れ、民話を聞く会を実施。 <p>3 調査研究事業</p> <p>考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物、保存科学の6分野において、宮城県、東北地方を中心に調査研究を実施。これらの調査研究の成果については、研究紀要や定期的に開催する講座などで公開。</p> <p>4 資料管理事業</p> <p>(1) 資料の収集・利用</p> <p>実物資料の購入はなし。資料寄贈は6件2,041点。寄託・移管資料はなし。図書の登録や利用は記載のとおり。</p>
-----	---

	<p>(2) 保存環境・保存処理等 収蔵庫、展示室の温湿度の常時監視、加害生物調査及び駆除、浮遊菌・塵埃などの総合的害虫防除管理調査の実施、その他の遺跡等の出土資料の約80点の保存処理などを実施。</p> <p>5 東日本大震災対応 被災文化財の保存活動 県内の被災文化財に対し県文化財課等と連携・協働しながら対応。本年度は震災により水損し、一時保管を続けてきた美術工芸資料10点の返還対応。</p> <p>6 その他 (1) 予算については記載のとおり (2) 施設設備の改修についても記載のとおり (3) 入館者統計 12月末時点の入館者数は118,297人。前年同時期比42,584人増 なお、入館者数の詳細につきましては、11ページに記載。 (4) 友の会 12月末時点の会員数及び会員活動状況については記載のとおり</p> <p>令和5年度特別展観覧者アンケート概要 (1) アンケートの回収率（アンケートは春・夏の特別展で実施） 特別展観覧者合計60,632人に対し、回収数1,554件、回収率2.6% (2) 来館者の属性 ①「みほとけ展」では女性の比率が高く、「はにわ展」では半々となっているが、トータルでは女性の比率が高い。 ②年代別では、40から59歳の割合が40.3%、次いで60から79歳が34.9%となっている。 ③居住地別では、仙台市から来館者が、43.1%、次いで仙台市以外の県内市町村で38.6%となり県内の割合が8割を超える。 (3) アンケートでの主な意見 みほとけ展では、「数多くの国宝や重要文化財を見て、東北の復興について改めて考える機会となり、良かった。」と肯定的なご意見をいただいた。 一方で「音声ガイドや展示解説の内容をもう少し詳しくしてほしい。」と改善を要望する意見をいただいた。これらの御意見を踏まえ、今後もよりよい展示に努めていきたい。</p> <p>議長 ただいまの事務局からの説明に関しまして、委員の方から、ご意見やご質問をいただきたいと思えます。</p> <p>堀内委員 私は奈良・東北のみほとけ展を拝見いたしました、駐車場に入れなく、臨時駐車場ができていてこんなに観覧者が多いんだと、びっくりしました、内容も非常に素晴らしいものだったと思います。観覧者も過去4番目ですか、それぐらい皆さん、関心を持たれるような、素晴らしい展覧会だったと思います。感激いたしました。</p> <p>私も同じ感想です。奈良・東北のみほとけ展は、大変見応えのある展覧会だったと思っておりました。平日に見に行っても、大変盛況であったということでしたし、土日はもちろん、人もいっぱいだったということで見応えがあったなと思えました。このアンケートの結果にもあるように、普段は見られない仏像の後ろ側から見ることもできたというのは、まさに私もこれが一番の感想で、裏がこうなっていたんだ。大変有名な仏像関係もありましたけれども、東北各地にもこのような仏像があって、それが一同に見られるといった感激がありました。年代別に見るとやはり私の年代が多いなと思って見ていたところでしたが、学校でもう少し子供たちに呼びかけて、若い子たちが見る貴重な機会でしたので、呼びかけていきたかったかなという反省になりますが、そのくらい大変素晴らしいものだったと思います。</p>
--	---

議長	ありがとうございました。他に発言があれば。
根来委員	<p>今回初めて参加させていただきますので、一点お尋ねしたいのですが。この協議会の根拠となる博物館法第23条に博物館の運営に関し、館長の諮問に対して応ずるという協議会と明記されております。それで、今回どういう視点で申し上げ、会議に参加すればいいのかという質問です。いろいろな事業を支えていく中で入館料を徴収されているところもありますので、その費用対効果の件であるとか、事業そのものの内容についての意見が求められているのか、その辺のところを確認の上、意見を述べさせていただきますと思っています。</p>
議長	事務局の方からお答えいただいでよろしいでしょうか。
副館長	<p>いろいろな立場の方に委員をお引き受けいただいておりますので、それぞれの立場から、事業の概要であるとか、運営についてとか、専門のそれぞれの立場から、自由に発言していただいで構いません。逆に博物館の事がよくわからないから教えてくださいとか、そういうことでも構いませんし、私共にとっては皆様のご意見は、非常に助かりますので、あまりこだわらずにご自由に発言いただければと思います。</p>
根来委員	<p>ありがとうございます。こちらに博物館ができた時から、非常に興味を持って、いろいろな企画を拝見させて頂いております。今回の報告の中にもいくつか上がっているのですが、博物館の皆さんが計画を立てていただいた内容が、年間を通していろいろな方が足を運べるような企画を、バランス良くやっただいでいるなという印象です。博物館は、どうしても年齢層が高い人たちが行くところ、というイメージを持っておりましたので、そうそういうところを本当に払拭してくださって、地域地元の方々も足を運びやすい企画展が多数ありますので、今後もそういう視点でぜひ継続していただくことで、来場者数もますます増えていくのかなと思っています。そこで気になっていることが、例えば河北新報社さんとか、そういったところを通じて、ここで行った企画をベースに色んな事業に波及しているものの中にはあるのですけれども、広告費とか、そういったことも関わっています。そういったものが入館料、県の補助金とか、そういったものに対して、バランスよく予算の執行がなされているのか気になってはいるところでもあります。特に公的な施設っていうのは、比較的県民の皆さんにとっては、お金の使い方が、意外に見えないこともありますので、ある程度その辺の透明性というか、公開する場面もどこかであるといいのかなという気はしております。個人的な意見も含めてです。以上でございます。</p>
議長	いかがでしょうか。
副館長兼学芸部長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。まず展示といたしましては、新聞社さんなどと連携して行う大きな巡回展の他に、我々の博物館で実施する自主企画展と大きく二つに分けられます。大きな巡回展につきましては、主催者となる方と協議しながら、入館料等、その他広告のあり方を協議しながら、その中で、お金のことを含め、協定を結び、執行しております。我々は県の機関ですので当然ながら、県議会に諮って了解を得ることになってますので、そういう意味では公開しております。会計検査も受けておりますので、しっかりした執行をしていると認識しております。費用対効果については、博物館の事業は、なかなか費用対効果を出しにくい面がありまして、本来は無料で展示をするのが博物館法にありますが、当博物館では1700円を上限にしておりますが、その範囲内で入館料を頂きやっっていくことは決まっております。費用対効果と言われますと出しにくいところではございますが、その中でもやはり広告のあり方とか、反省点をいろいろな方から意見をいただきますので、しっかり受け止めながら、さらに有効に広告をし、来館していただく、そういった方法は、毎年、反省点として出しながら</p>

議 長	<p>行っているところでございます。</p> <p>よろしいですか。</p>
根來委員	<p>何か疑問を持っているわけではなく、企画、運営をしてくださる博物館は、今後も健全に継続していくべきだと思っていますし、地元にいる人間は誇りを持っています。ですから何かお金が原因で問題が起きたり、何か大きく変えないといけないことが起きたりしないようにしていただきたいと思っていたところでありました。こちらの資料1の中にある予算だと、結構簡素だったのでこういうのが出るんだったら、もう少し明細があっても良かったのかなというところから、その費用対効果とか、その辺のところは気になって発言させていただきました。ありがとうございます。</p>
副館長兼学芸部長	<p>ありがとうございます。予算の執行状況について、さらに、細かい明細というお話がありました。どういう出し方をしたら適切かというのは、検討させていただきます。</p>
議 長	<p>ありがとうございます。関連して委員の皆さんから御意見はありませんか。</p>
佐々木委員	<p>「学校教育との連携」で教えていただきたいと思いますが、先ほどご説明いただいた6ページの②学校教育との連携のところ、実施状況で思ったことが一件あります。職場体験で、主に中学校二年生対象に行われることが学校現場では多く、コロナ等もあって、各校ではなかなか難しかった期間ですが戻ってきてますでしょうか。それともやはり以前より減ったという感じでしょうか。</p>
企画部長	<p>職場体験ですね。基本的には以前と同じように申し込みがありますが、ただ私も教員をやっていたので職場体験の企画と受入れ、両方の面を理解していますが、なかなか学校の要望が難しい。例えばこの日の3日間お願いします。とか依頼あっても、うちの行事次第では対応できないことがある。だから、なかなか合致したところという、どうしても年間通して、2校3校となります、後やはり通勤ですね。ここまで来る地域条件も考えますと、やはり近隣の学校という形になり、多賀城市内とか塩釜市内とかの学校の受け入れにならざるを得ないというのがあります。ただ、県の博物館であるという立場を考えますと、広く受け入れていきたいので、例えば、夏休み時間中に学芸員体験という形で広く募集する。そういったことも担当部署の方と、検討しながら考えております。学芸員という職は、いろいろな形で注目されていますので、その様な意味では子供たちの中にも、博物館で体験をしたいという要望が出ているのは、重々承知しておりますので、今後検討していきたいと思っております。</p>
佐々木委員	<p>ありがとうございます。近隣中学校1名体験しておりますが、近隣中学校から本校にも同じ時期に、職場体験に来た子どもたちもいたので、きっと同時期だったんだなと思いました。それこそボランティア的な事業で受け入れるしかないんだろうと思ったので、どのように対応されているのかと思ってお聞きしたところでした。本当にいろいろな職業があるということで、知ってもらいたいという良い機会があるのと、やっぱり本当に歴史好きな子供たちとか、とことん調べてみたいという興味を持っている子供たちがいるので、そのニーズに応える窓口が色々あるといいなと思いましたので、聞かせていただきました。ありがとうございます。</p>
企画部長	<p>学芸員体験だけではなく、バックヤード公開とか、そういったことにもですね、同館では体験イベント等もやっておりますので、そういったことは周知広報しています。ぜひ、いろいろな体験をしていただければいいのかなと思っておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。</p>

議長	他にございますか。
菊池委員	アンケート回収率は2.6%ぐらいと、なかなか出す方が少ないと思います。でも本当にいい意見がそれぞれあると思います。私も欲しいなと思ったのは、休む場所です。座って落ち着いて見れる場所のスペースがあれば、その場所に行って自分で満足すると、幸せになります。そういうものを感じられるようなスペースを取っていただきたいと感じました。
議長	観覧中に休憩できるスペースをもう少し設けたらというご意見ですが、いかがでしょう。
企画部長	企画段階で、展示室内のレイアウトとして、やはりそういう要望が出るのも承知しております。できるだけその展示の空間を、雰囲気にあった形で休憩の場所をできるだけ多く取るようにレイアウトの設計の段階から心掛けております。資料を見て、途中で椅子があったりするとそれはそれで、雰囲気も総合的に考えますので、展示室内では、ある程度制限されるので、展示室を出たところ中央ロビーとかには、今後も椅子等を設置して休憩できる場所をできるだけ多く取っていくように心掛けていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
議長	博物館の展示を見るというのは意外に疲れるんですね。座って鑑賞できるといいですよ。単なる休憩じゃなくて、それはレイアウトでいろいろ難しい問題はあるかと思いますが、よろしく願いいたします。
今野委員	<p>みほとけ展実行委員会の一員として河北新報社も関わらせていただきました。みほとけ展は中身は大変素晴らしいものだったと自負していますが、当初想定していた観覧者数には残念ながら及ばなかったというのが実情です。あれだけの展示物を全国から持ってくるので、費用に関しても相当かかっています。最終的な収支に関しては、主催各社、各団体のほか、協賛企業、協力団体などとの関係もあるので、ご理解いただきたいと思っております。</p> <p>一般論として報道機関としては広報やPRに関する業務もあるのでですけど、正直、地域や社会貢献事業の一環としての側面が大きく、個々のイベントで大きく儲けようということではありません。みほとけ展も河北新報の紙面で紹介記事や特集のほかに40回ぐらい広告が出ています。</p> <p>私も会社に入って41年になりますが、去年までの40年間ずっと報道の現場にいたので取材することしか知りませんでした。去年から事業担当として関わるようになり、あらためて勉強させていただいておりますが、全般的に言えることは、仙台というところがイベントや展覧会の実施で入場者数などの予測が難しい場所だということです。音楽や演劇、古典芸能などのステージ関係はコンスタントに入るんですけど、展覧会、展示会関係は、仙台は数字が読みにくいですね。全く同じものを巡回展として仙台で主催として実施しても、東北の他の都市でコロナ禍にやった時よりも大きく下回るということもありました。なかなか分析は難しいのですが、例えば仙台というところは、どこかここで、いつも、何かしら必ずイベントをやっており、観覧者が分散してしまうという傾向があります。仙台よりも人口規模が小さい都市で目玉としてイベントを行うとそれなりに入るんですが、仙台は分散しちゃってなかなか難しい場所だということをおもわかってきました。</p> <p>一つ一つのイベントを単発で見るとなかなか収支の合わないことがあり、トータルで見ると見れないところがあります。一つの展覧会で厳しかったというのはありますが、歴史博物館としても、年間トータルで見て入館者数の伸びとか、収支とかを見ていかないと厳しいのかなというような気はしております。</p>

議 長	<p>何かございましたら。</p> <p>一方で、次の資料に載っていますが、みほとけ展でかなり入場者が一気に集まったために、混乱が生じたというような、そういうこともあって一体どれぐらいのキャパシティがあるのかということ、一時的に入場者が来場した場合にその辺との兼ね合いも多分あることかと思えます。</p>
今野委員	<p>これも仙台で展覧会やイベントを行う際の特徴ですが、スタート時や前半の数字が非常に厳しいです。後半になって、さらに残り1週間になってくるとバタバタと来るんです。どこもそういう傾向はありますが、特に仙台はそれが顕著です。最終的には先ほど会長がおっしゃったとおり、みほとけ展も会期の最後の方は、本当に駐車場に入りきれないぐらいの入場があったりしました。会期を通してまんべんなく入るのが理想ではありますが、切羽詰まったところでどっとくるのが仙台の特徴の一つでして、そこら辺の対応に難しさはあるのかなという気はしております。</p>
議 長	<p>入館者を分散させることはとても難しいでしょうけど、目玉になる展示物をうまく配分するようなことでしょうか。難しいですね。</p> <p>他に何かございますか。</p>
籠橋委員	<p>今までみほとけ展に関しての発言が集まっておりましたが、自主企画である「はにわ展」を私も拝見いたしました。両方見たのですが、私は、はにわ展の方が特に印象が強く感じました。博物館らしさが非常に出てる展示だったなというふうに拝見しておりました。キャラクターやイラストを多用しているというところで、そういった意味での評価もできますし、それから何といても中央の部分に設置されていた、古墳の部分というのが、むしろ、あれだけのものを展示室に設置するということが自体が学芸員や、展示企画としての、そのチャレンジとして非常に有効なものだろうというふうに感じておりました。そういったチャレンジというのは、是非今後も続けていただきたいと思えます。</p>
議 長	<p>もし、何かあれば。</p>
企画部長	<p>みほとけ展の発言がありましたので、当館の場合は、巡回展などの大型の企画展と、自主的に我々職員の研究成果を発表するという形の、二本立てでやっております、みほとけ展が入場者が思うように入らなかったと、今野委員から発言がありましたが、巡回展ですとコマーシャルも入りますし、いろいろな形で広まっていくのですけれども、自主企画展ですとコマーシャルもできない。学芸員としての、持っている力を十分に発揮する場だというふうに感じております。籠橋委員からお話がありましたが、中央に前方後円墳のジオラマを、職員で作成いたしました。結構大きなもので日数もかかりましたが、来ていただいた方には評判が良く、そういった手作り感のあることをコツコツやっていくことも博物館の仕事かなというふうに感じております。なかなか収益に結び付かないとか、色々あるのですけれど、ただそこは頑張っていけないと思っておりますので、展示の良さを知っていただくための努力はし続けて参りたいと思っておりますので、委員の皆さまのお立場などで、広報などのご協力をいただければ、ありがたいので、よろしく願いいたします。</p>
議 長	<p>それでは次の議事に移ってもよろしいでしょうか。</p> <p>では、二番目の事業計画を、よろしく願いいたします。</p>
副館長	<p>それでは資料2をご準備いただければと思います。</p> <p>(説明の概要)</p> <p>【令和6年度事業計画】</p> <p>1 企画展示事業</p> <p>(1) 常設展示</p>

- ・総合展示室は、7年2月のメンテナンス期間を除き、これまでどおりの継続展示。
- ・テーマ展示は、3つの展示室で合計15テーマの展示を行う予定。
- ・映像展示は、東北地方の祭りや民俗芸能、工芸技術の映像を上映。
- ・今野家住宅は、四季折々の催事にあわせて飾り付けを変えながら展示公開。

(2) 特別展示

特別展示は、春・夏・秋の3回の展示を予定。

【世界遺産 大シルクロード展】

令和6年4月9日から6月9日までの54日間開催予定。

近年では、シルクロードが2014年にユネスコの世界遺産に認定され、中国ではこれを契機としてシルクロードへの関心が高まり、学術調査や研究はこれまでにない勢いで進められ、新しい発見が続いている。

本展示会は、この世界遺産認定後、中国国外で初めて行われる大規模なシルクロードの展示会である。世界遺産に登録された中国国内の遺跡を紹介し、また日本初公開の文物を含むシルクロード文化を公開する。

関連行事は、ワークショップを予定。目標観覧者数は5万3千人。

【和食 ～日本の自然、人々の知恵～】展

令和6年7月6日から9月23日までの70日間開催予定。

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されてから10年となる2023年に国立科学博物館を皮切りに全国を巡回する展示である。

本展示会では、世界中でますます注目の高まる和食を、バラエティ豊かな標本や資料とともに、科学や歴史などの多角的な視点から紹介する。

関連行事といたしまして、講演会2回、ワークショップ実施、県産食品の販売・紹介などを予定。目標観覧者数は3万3千500人。

【多賀城1300年】展

令和6年10月12日から12月15日までの56日間開催予定。

多賀城創建1300年を記念した展示として、1300年前になぜ多賀城がこの地に築かれ、どのように展開したかについて、その頃の律令国家や陸奥国の様相を交えながら展示を行う。また、多賀城跡調査研究所や宮城県教育委員会による近年の発掘調査の成果を踏まえ、陸奥国や中央政府、北方社会の動向に関連させながら古代の多賀城の姿を再現するとともに、1300年後の現代まで多賀城がどのように人々に認識され、関わってきたかを辿るような展示とする

関連行事といたしまして、記念講演会、多賀城歴史講座、VRミュージアム体験、多賀城跡めぐり、展示解説などを予定。目標観覧者数は1万2千人。

2 教育普及事業

(1) 施設運営

図書情報室は配架図書の充実、DVD視聴の活性化を図る、今野家住宅は博物館ボランティアの協力を得て運営、こども歴史館はインタラクティブシアター「歴史と防災学びのシアター」により歴史的災害から学ぶ防災教育の活性化に取り組み、学校利用と個人の学習支援の強化を図り利用者増につなげる。

(2) 催事運営

館長講座、分野講座、れきはく講座、多賀城跡巡り、体験教室、体験イベント等1年を通じ実施予定。

3 調査研究事業

考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物及び保存科学の6分野で、科学研究費や文化庁の国庫補助金を活用し、調査研究事業を実施予定。

4 資料管理事業

令和5年度と同様に、資料の収集・利用・保存処理等に努める。

5 東日本大震災対応

県内所在の被災文化財に対し、県文化財課と連携・協働し、修理や保存に努める。

	<p>6 改正博物館法及び教育DXへの対応」</p> <p>今回の博物館法改正の概要について、少し補足をさせていただきます、令和4年4月に公布された博物館法の改正では、博物館の事業として、「地域の多様な主体との連携協力による文化観光、まちづくりその他の活動を図り地域の活力の向上に取り組むこと」が努力義務とされました。この法改正を受け、県で定める「東北歴史博物館条例」等が改正され、それにあわせて改正博物館法の趣旨である、資料のデジタルアーカイブ化及び学芸員等の人材の育成研修が、当館が行う新たな事業として位置づけられた。これを受け次の3つの取組を進めます。</p> <p>(1) 情報システムの更新</p> <p>高度な電磁的記録（高精細画像、動画、3Dデータ）の作成・公開に必要な機材の確保、及び「予約台帳システム」の導入で利便性の向上を図り、リアルタイムで予約の見える化と予約受付業務の自動化を図る。ホームページのデザインを刷新し、魅力的でわかりやすい情報発信により、改正博物館法に対応した博物館DXに取り組む。</p> <p>(2) 人材の養成及び研修</p> <p>民俗資料の魅力発信事業を通じて、有形民俗文化財にかかる知見とデジタル・アーカイブ化の技術、公開手法の共通化、スキルアップを行い、県内の博物館施設及び市町村教育委員会の民俗分野担当職員の資質向上を図る。</p> <p>(3) 地域連携・県民参加</p> <p>観覧券販売におけるキャッシュレス・自動集計の高度決済サービスを導入し、地域の多様な主体とレシートキャンペーンの連携・協力、マーケティング情報の共有を行い、文化観光、まちづくりの他、地域の活力の向上に取り組む。</p> <p>議長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さんからご質問、ご意見を賜りたいと思います。</p> <p>根来委員 教えていただきたいのですが、1点目は特別展示の期間ですが、56日間とか70日間という、その期間を定めるに当たって、どういう基準でこの期間が決まっているのか、2点目がデジタルアーカイブ化、これが学校教育との連携を考慮されているのか、考えられているのであれば、それがどのような形で連携されることを想定されているのかを教えていただきたいと思いました。</p> <p>議長 では、2点よろしく申し上げます。</p> <p>企画部長 特別展の期間ですが、これは展示される資料により展示期間は決まっており、それに合わせた期間ということです。他に巡回展などは、次の会場とその準備の調整等をしていくと、このような日数になっていくという感じでほしい2ヶ月位です。決まりという訳ではないのですが、ご理解いただければと思います。それからデジタル化に関しましては、デジタル化されればオンラインで学校と繋いで、資料を見ていただくということ。よく学校の方から、出張授業の要望があるのですが、これも学芸員の業務の関係で、すべて対応できない状況です。デジタル化が進めば、オンラインの中で授業に参加でき、さらにその資料もデジタル化されれば、配信という形でご覧いただくことも可能になっていきます。そのような意味では、デジタル化によっていろいろな提供の仕方が増えていくということは、博物館として模索していきたいと思います。学校の協力とか、もちろん学校以外のところでもネットさえつながっていれば、同様の取組がどんどん取り入れられていくと思いますので、デジタル化というのがすごく重要なことになっていくと認識しております。ありがとうございました。</p> <p>議長 よろしいでしょうか？ 委員の方で学校関係の方もいらっしゃいますが、何かありますか。</p>
--	--

堀内委員	<p>私はデジタルアーカイブ化というのは大変有益な方法だと思っております。以前も出前授業を多くしてもらえないかというような話題も出た時もありましたが、いろいろな意味で難しい面もあるということでした。こうしたデジタルによるオンラインでの授業であったり、講義であったり、あとは教員の研修であったりとか、そういったものを利用できるのは大変ありがたいことだと思っております。多賀城1300年展を大変楽しみにしております。本当に区切りのいい記念すべき年だと思っているところですが、目標観覧者数が1万2千人、もっと来てもらえないのかなという期待があるのですが、自主企画ということでこの目標設定なのかなと思ったのですが、妥当なところなのか。そのあたりを教えてくださいたいと思います。</p>
企画部長	<p>あくまでも目標ですので、もちろんこれ以上沢山の方に、見ていただきたいというのがあります。ただ、観覧料の決定等の様々な要因の中で、目標としてこういう数字を掲げているということです。当然、我々はこれ以上沢山の方に来ていただけるような工夫はしていきますので、どうぞ広報のご協力をいただければと思います。</p>
議長	<p>いかがでしょうか、関連して何かあれば。</p>
今野委員	<p>来年度の目玉の企画展のうち、大シルクロード展と和食展は、河北新報社とk h b東日本放送が地元の報道機関として主催に入ります。シルクロード展は、宮城展でも主催となる東京富士美術館で皮切りの展示会を私も見て来ましたが、やはり素晴らしいものでした。全国巡回展で、5か所で開かれます。東京より北はここだけですので、東日本一帯から人を集めたいと思っております。開催期間がゴールデンウィークにもかかっていますので、観覧者数の上積みには大いに期待しています。和食展は朝日新聞社が主体になっており、これも東京・上野の国立博物館で見て来ましたが、なかなか興味深い展示だという感じです。それはもうまさに夏休みに開かれますので、やっぱりご家族とかで見ていただきたい。上野で見たときは平日だったのですが、結構若い人たちが見に来ていました。和食に対する関心も今、非常に高まっています。多賀城1300年展は、実行委員会の方に弊社も関わらせていただいています。この展示会そのものが1300年に向けて打ち出す事業の一環、目玉のひとつだと思います。弊社としても大いにバックアップできればと思っておりますので、よろしく願います。</p>
菊池委員	<p>今のお話と関係しますが、シルクロード展、これは本当に楽しみです。みほとけ展は、すごくメディア関係で報道して下さったという記憶があります。テレビを見ても新聞を見ても、いろいろな方に知れ渡ったと思います。シルクロード展でもメディアを通して皆さんに宣伝していただきたいと思います。あと和食展ですが、いつも夏休みというのは子供さん中心に企画されている展示だと思います。先ほど、家族や若い人たちが多かったということを聞いて、ホッとしました。子供さんたちも楽しめる場所があったという受け止めでよろしいでしょうか。</p>
今野委員	<p>そうですね。食材そのものに関する展示が結構前半続くのですが、お米とか畑の物とか、昆布の実物大の展示とかもあって、そういうものを見て、非常に勉強になるというか、和食の原点はこうなんだと感じていただけたと思います。後半になると、調理方法が次々に出てきます。どうやって調理の工夫を重ねてきたかという歴史とか、漫画のサザエさんで取り上げていた和食が、実際はこういう風に作っていたと解説するコーナーとかもあって、そういうのは子供さんも喜ぶかなと思っております。いろいろな形の包丁がずらっと並ぶ展示もありますので、家族連れで楽しんで見ていただけたのではないかと感じております。</p>
菊池委員	<p>それから多賀城1300年の展示ですが、こちらを取り上げていただき市民としては大変お世話になりますということをお伝えしたいと思います。そこで学校教育の方と関連させてもらって、多賀城の子供たちにより多賀城を知り、多賀城の歴史を語れること</p>

	<p>は、多賀城の教育方針にもありますので、ぜひいろんなところで応援していただきたい。例えば、月曜日の休みの日とか、前に東大寺展でも月曜日だったか、平日の夕方から特別に多賀城の方たちを入れた期間があったと思います。それで、やはり小学校という、時間的に取れるかどうかわかりませんが、これは博物館にお願いすることなのか、市の方をお願いしたらいいのか。せっかくこの多賀城を中心に展示をするのですから、その子どもたちに現物を見せてあげたい。そこで学芸員の方からいろんなことを教えていただきたいというのが個人の意見です。そういう時間が取れればですが、多賀城市の教育委員会の方に言った方がいいのでしょうか。</p>
企画部長	<p>1300年実行委員会という大きな枠組みの中で、教育委員会の方も入っておりますので、会議の場で博物館協議会の中で意見が出ましたとお伝えしたいと思います。あとやはり、市民の方から働きかけていただくというのもまたそれも一つ的手段だと思います。先ほど和食展で子供向けという話が出ておりましたが、展示の内容も食品サンプルの形で、実物はなかなか展示することができませんので、そういった形で分かりやすく提示しておりますし、あとキャラクターですね。今回、リラックマが和食展で提携しているキャラクターになっております。うちの方でも、取り入れていきたいと思っておりますし、夏休み中にぜひ、小学生とか、中学生を含め来ていただきたいと企画を考へておりますので、そういった学校向けのチラシなどの配布も考へておりますので、その際はぜひ、本日も学校の先生方がいらっしゃってますので、学校の方にも協力いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします</p>
議 長	<p>特別展示関係で、今話が進んでいますが、その関連で何かございますか。</p>
佐々木委員	<p>特別展示ですが、3つ予定されています。私自身も博物館観覧が大好きなので、とても楽しみにしております。それから和食展のお話で、リラックマの話が出ましたが、こういったキャラクターは本当に小学生がすごく興味を持つところで、行ってみようとするきっかけが、大事じゃないかなと思っているところです。3ページの教育普及事業のところでお願ひしたいことがあります。学習支援の強化を図るところでは、本当にありがたいと思っております。多分、そういう場が、いろんな形でこちらからお願ひをしたり、問い合わせをしたり、いろんな形で対応してくださると思いますが、今やっぱり学校では、主体的・対話的で深い学びを進めているところです。例えば、博物館といったような場所での学びというのは、個に応じた学びに通じるので、貴重な機会、場となるんじゃないかなと思っております。ぜひ学校の方に、そういう場が地元にあるんだ。そういう学びの場があるんだよということを広めていきたいと思っております。先ほどから学芸員の方々が忙しいというお話もあり、どれくらいニーズに伝えていただけるかわからないのですが、例えば長期の休みの時とか、自由研究的なことで行ってみたい、調べてみたいという風に言った時に、我々教員の方でもそういう学びの場もあるよと、情報提供させていただきたいと思っております。引き続き、忙しいとは思いますがそういった学び場の提供と、これからのご対応をお願ひできればと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
企画部長	<p>先ほどから、学芸員が忙しいと言って申し訳ないのですが、なかなか個別の対応は難しいというのは現実です。先ほどもあった話で、オンラインの活用も模索していきますし、長期の休みなどで、博物館に来ていただければさまざまな形で対応が可能になると思います。例えば、3階に図書情報室がありますので、図書館よりも市町村誌とか、そういった資料は揃っていると自負しておりますので、ぜひ利用していただきたい。それから図書情報室に司書という形でレファレンスに応じる職員もおります。あとはこういう調べ方がありますよと、情報提供することもできますので、まずは博物館に行ってみなということ、ぜひ言っただけければと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>
今野委員	<p>リラックマは特別キャラクターとしてチラシにも入っており、好きな方ならチラシを</p>

	<p>もらっただけでも喜ぶし、これに合わせたコラボグッズも大量にあります。いわゆる限定グッズとか、そういったものもありますので、期待していただきたいと思います。</p>
議 長	<p>どのような意見でも結構ですが、何かございましたら。</p>
籠橋委員	<p>催事運営のところで、令和6年度の事業計画を拝見すると、特別上映会というのが新しく入っているようですが、聞き落としたかもしれません、これはどの様なものか教えていただけますか。</p>
企画部長	<p>常設展示の中に、映像展示室というところが1時間おきに定期的に映像を流している場所があります。そこを更に活性化させようということで、映像を流し、前方に簡単なステージがありますので、学芸員が説明を加えながら映像について解説していくということもできるのではないかとことを考え、特別上映会という名前になりました。</p>
籠橋委員	<p>コンテンツを新しいものではないのですね。</p>
企画部長	<p>新しいと言えば新しい試みです。今までは定期的に映像を2本か3本を流し、同じテーマを使っていたのですが、それ以外にもチャレンジする試みでございます。</p>
籠橋委員	<p>分かりました。</p>
議 長	<p>東日本大震災というところで、これは東日本大震災後に発生した災害によると今回なっておりますが、昨年度のもの、資料の9ページにありますが、そこには東日本大震災及びその後発生した災害とありまして、要するに今回のものからは、東日本大震災で被災した文化財は、この文脈だけで言うともう除外しましたという、そういうことになるのですが、そういうことでよろしいのか。なお、あえて東日本大震災対応という項目を作るということはどういうことなのか伺いたい。</p>
副館長兼学芸部長	<p>東日本大震災対応というのは、東日本大震災も13年前になりますが、その時も被災した博物館などからの資料を修理して、その後お返しができるようになるまで保管する、そういったお手伝いをしていたところでした。これにつきましては、ほぼ終了いたしましたので、これについては終わりとし、同じような対応を今後も、最近も地震などもありましたが、文化財レスキューという形の仕組みが整ってきておりますので、今後も継続していくということになります。対応の仕方は基本的に同じになるのですが、地震関係として今後出てくるところ、また継続しているのがありますので、並べ方については分かりにくいところがあったと思いますが、この被災文化財のレスキューということで理解していただければ結構だと思います。</p>
議 長	<p>東日本大震災で被災した文化財とその手当ては完全に終わっていないと思うのですが、東日本大震災及びその後というのは残した方がいいのではないかと私は思いますが。</p>
副館長兼学芸部長	<p>実際の動きとしては、東日本大震災の修理などで、うちの保存科学の分野で協力しておりますし、保管等にも関わっております。それについては今のところ終了しています。おっしゃる通り、東日本大震災とその後と表示タイトルにいたします。</p>
議 長	<p>むしろ、もうそのような認識していらっしゃるのだったら、東日本大震災対応ではなくて、被災文化財の保全活動というタイトルにしてしまった方が、むしろスッキリするのではないのでしょうか。私はやはり東日本大震災及びその後っていうのは、まだ残しておいた方がいいのではないかと意見です。</p>

副館長兼 学芸部長	すみませんでした。先ほどほぼ終わりと言いましたが、全部終わりではないので、若干残っておりますので、まだ残しておきたいと思えます。
議 長	それでは、議事はこれでよろしいですか。では、それでは時間も押してまいりましたので、3番目の中期目標と自己評価に関する説明をよろしくお願いいたします。
管理部長	<p>(説明の概要)</p> <p>I 目的 記載のとおりで、より魅力的で親しまれる博物館を目指して取り組みを進めてまいりました。</p> <p>II 取り組み項目 「1 常設展示・企画展示」から「8 変化する社会への対応」まで8つの項目を設定し、これらの項目の下に14の活動方針と、28の達成目標を設定しております。 また、重点目標として「暮らしを潤す博物館（豊かな心プロジェクト）」と「学び・繋がり・地域に貢献する博物館」の2つを柱に据え、前期においては7つ、令和5年度においては、5つの達成目標を重点目標に位置付けて、利用促進を図るとともに、日々の暮らしに心のゆとりをもたらし、人々と繋がり、地域に貢献する博物館を目指しております。</p> <p>III 評価概要 評価の基準を「4 十分達成されている」から「1 不十分である」の4段階とし、全職員で自己評価を行い、その後、中長期目標達成推進委員会において、その評価結果を基に、委員会の意見を付した上で館としての評価をまとめた結果、総合評価では「ほぼ達成されている」、個別評価では、4の「十分達成されている」が14の目標で、ほか14の目標で「ほぼ達成されている」という結果となりました。</p> <p>IV 目標達成のための個別取組 自己評価説明後、説明いたします。 1 ページを御覧願います。28の達成目標に対し、それぞれ実績と、推進委員会の評価、そして意見を記載しております。 表の構成ですが、まず8つの項目に対する担当の考えなどを「コメント」として記載しております。次に「前期達成目標」実現に向け「実績」の欄に12月末時点での取組実績を記載、これら実績に対する「評価」の欄は、推進委員会でまとめた評価で、最後に、評価に対する推進委員会としての意見を、一番右側に記載しております。 個別の達成目標の説明につきましては、限られた時間でございますので、評価が「4 十分達成されている」となった項目について、活動方針ごとに説明させていただきます。 なお、実績については先ほどの「令和5年度事業報告」と重複いたしますので割愛させていただきます。 はじめに、1 ページを御覧ください。 「達成目標No②」については、施設の長寿命化対策の計画策定において、展示施設整備のリニューアルに係るロードマップが館内で共有されたことを評価したものです。 「達成目標No③」と「No④」については、前年度の実績を基に改善点を検討し、展示内容の魅力向上をさせることで、アンケートでの満足度が高かったこと。また、令和6年度の巡回展（2件）を誘致し、その開催に向けて準備を進めることができたことなどを評価したものです。 つぎに、2 ページを御覧ください。 「達成目標No⑦」と「No⑧」については、経費削減の中で、成果の先細りを招くことなく、効率化、合理化を図りながら業務にあたったこと。また、外部との連携協力及び調査研究の進捗が認められたことを評価したものです。 つぎに、3 ページを御覧ください。 「達成目標No⑨」と「No⑩」については、本館の資料収集方針に基づき、適正かつ円滑な運営が認められること。また、当初計画に則った着実な事業運営の進展が認めら</p>

れることを評価したものです。

「達成目標No⑩」については、浮島収蔵庫における管理保管上の新たな危険因子が出現するものの、計画的かつ合理的な対応を行い資料保全が図られていることを評価したものです。

「達成目標No⑭」については、みやぎ電子申請サービスの活用が定着したことにより、電話等の問い合わせが減少し、事務改善が図られたことを評価したものです。

つぎに4ページを御覧ください。

「達成目標No⑰」については、博物館友の会の自立運営に向けて各種企画立案・運営面での支援を行い、催事の実施など活発な活動につなげることができたことを評価したものです。

「達成目標No⑳」と「No㉑」については、多賀城市防災ハザードマップの更新に伴い、マニュアルや訓練内容等を見直し、二次被害のリスクの低減に取り組むとともに、現場スタッフの意見を踏まえ、研修を徹底し、非常災害時の体制づくりに取り組んだことを評価したものです。

つぎに5ページを御覧ください。

「達成目標No㉒」と「No㉓」については、宮城県博物館等連絡協議会の活動の充実が図られているほか、後進育成及び社会貢献等を積極的に進めるとともに、博物館実習の学生に対して、貴重な体験研修を提供できていることを評価したものです。

なお、ただいま説明いたしました評価資料の表の左から4列目の「重点目標取組」について、「◎」を前期（5か年）重点目標、「○」を令和5年度重点目標の取組として表記しておりますが、それらの重点目標のうち、評価を「4」とした達成目標No③、⑦、⑨、㉔及び㉕の5項目は、いずれも第2期中長期目標の前期重点目標となっており、引き続き、この評価が維持できるよう努めてまいります。

また、ただいま説明いたしました評価4とした項目以外の項目については、それぞれの達成目標に向けた個別の取組が、着実かつ円滑に進んでいることから、「3ほぼ達成されている」と評価いたしました。

つぎに、総合評価における推進委員会の意見といたしましては、記載のとおり、「3ほぼ達成している」と評価いたしました。

以上が、「第2期東北歴史博物館中長期目標 令和5年度自己評価」結果の概要でございます。

引き続き、「令和6年度の中長期目標達成のための個別取組」について説明いたします。

資料、お戻りいただき、表紙の裏面、「取り組みの概要」を御覧ください。

IVの「目標達成のための個別取組」につきましては、

28の達成目標の実現のための「目標達成に向けた取組の内容等」については、県の財政事情や社会情勢等に大きく左右されることから、実際に取り組む事業として、毎年度、策定しております。

令和6年度については、自己評価や顕在化した優先的課題により、適宜見直しを行い、より時勢に即した個別取組を設定して「達成目標」の実現に努めてまいります。

内容については、7ページを御覧ください。

令和6年度に向けた見直しにつきましては、「達成目標No③及びNo④」の特別展並びに「達成目標No②」の改修工事について、令和6年度実施（予定）分に修正するとともに、「達成目標No㉗」に「総合学習のうち地域学習などに係る受入れの対応可能な範囲を見極めながら社会貢献を推進すること」や「達成目標No㉘」に「ユニバーサルミュージアム」の文言を加え、より時勢に即した取組みに、見直したところであります。

なお、重点目標の取組みについては、令和6年度も令和5年度の取組みを継続してまいりますと考えております。

以上が、「第2期東北歴史博物館中長期目標 令和6年度における目標達成のための個別取組」の概要でございます。

説明につきましては、以上の通りでございます。ありがとうございました。

議長	それではただいまの説明に対しまして、ご質問ご意見をよろしく申し上げます。
今野委員	3ページの⑩の評価ですけれども、この実績として順調に進行していると、それから推進委員会の意見としても着実な進展が認められるということになっております。こういった評価だと4にしてもいいのかなという気がするのですが、あえて3にされているのですか。それとそこまでやっぱり認められなかったということなのですか。文章からは評価してもいいような気がするのですが。
管理部長	これにつきましては、職員全員の評価になりますので、担当部署以外の者も評価してございます。ですので、その着実なというのは、最終的に推進委員会の意見にはなっていますが、その過程の段階での評価も含め全体を評価していますので、中にはその着実にやっていることに対しても、すべて十分だというふうに判断していない職員もいるということでございますので、全体で評価した結果でございます。
議長	他にございませんでしょうか。
今野委員	休館して行った改修工事とは、どういうもので、どういう状況だったのか、教えていただけますか。これについては直接資料に出ているわけではないのですが。
管理班長	今年度、空調工事の大規模なものをやっております。資料の保全のために24時間空調の機能は維持しているわけですけれども、蒸気を作ったりとか、あとは空気を冷やしたり温めたりする機能、そういったものを全部調和させて、それを各部屋に送るための機械を今回予防保全ですべて更新しております。常時動かしている機械ですので、故障が発生する前に、新しいものに取り替えたというのが今年度大きくやった工事になります。今後はそういったインフラの整備について順次行っていくのですが、電気の工事だったり、衛生設備とか、そういったものを年次計画で直していきながら、博物館の機能を維持していこうと考えているところで。
今野委員	⑪番の推進委員会の意見に「新たな危険因子が出現」という表現がありますが、これは何なのでしょう。
管理班長	来年度の事業のところで、浮島収蔵庫の改修工事があります。かなり昔の旧資料館なので、現在は資料の保管するための収蔵庫として活用しておりますが、一部雨漏りが発生してしまったところがございます。そういった部分で、資料に痛みが出てくるような状況が心配されることから、昨年度から今年度にかけて、いろいろなケアを学芸員がやっていたところです。こちらについては、今年度その屋上の防水をやり直すための設計を起し、来年度その屋上の防水工事を行うということで、そういうことから危険因子という表現が出てきたところであり、計画的に直していこうと取り組んでいるところでございます。
議長	他にございませんでしょうか。
佐々木委員	直接こちらの中長期目標と関わるかどうか、疑問などにはありますが、先ほどの令和5年度の事業報告の時にお聞きすればよかったのですが、教えていただきたいことがあります。県教育委員会で行っている中堅教員を対象にした地域向上研修というのがございます。体験研修を夏休みに2日間行うことが、必須の研修になっています。今年度はこちらを希望して体験した先生がいたのかどうかお聞きしたいのですが。
情報サー	今年度の受け入れはございませんでした。受け入れて欲しいとの希望はあったのです

ビス班長	けれども、日程の調整がつきませんでした。大変申し訳なかったのですが、お断りさせていただきました。その代わりに多賀城跡調査研究所をご紹介する形で、受け入れていただき、実施したのが1件です。
佐々木委員	<p>ありがとうございます。2番の教育普及であるとか、6番の地域連携・県民参加であるとか、8番の変化する社会への対応あたりに、事業としては入ってくるのかなと思ったところで、お話をさせていただきました。現場の話だけで申し訳ないのですが、我々は多様な見方、考え方というのを教員自身が身に付けなくてはいけないというところに力を入れているところです。もしその様な問い合わせがあった際は、今のようなご対応をしていただけるとありがたいです。</p> <p>長期の見通しということでお話をさせていただきました。その節はどうぞよろしく願います。</p>
議長	<p>よろしいですか。他にございますか。</p> <p>それでは予定していた時間になってきておりますので、全体を通してご意見とか伺います。特にないようでしたら、事務局に進行をお返しいたします。</p>
総括次長	<p>委員の皆様には長時間にわたり、ご審議をいただき誠にありがとうございました。この機会に何かご質問とご意見、確認したい事項などありませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和5年度東北歴史博物館協議会を終了いたします。委員の皆様、本日は大変ありがとうございました</p>